

中国河北省における食道がんに関する疫学・臨床情報の活用

王 士傑

中国河北医科大学第四病院 名誉院長、中国河北省腫瘍学会理事長

中国は世界において食道癌の罹患率と死亡率が最も高い国であり、その中でも河北省南部の磁県、涉県の罹患率は中国の平均レベルの 5 倍、全世界の平均レベルの 10 倍である。

河北省南部地域における食道癌の罹患率を下げるため、1970 年代から多発区では検診などで拉網細胞学検査 (esophageal abrasive balloon cytology)、胃液潜血反応検査 (金属球検査方法 (stomach occult blood test by a metal tube) など)、内視鏡下のヨード染色法などをおこなってきた。50 年近く経過した現在は、罹患率と死亡率が明らかに下がっている。

【研究における三つのテーマ】

1. 中国の食道癌の発癌の地域差
2. 検診データ収集
3. 発癌予防策、治療の現状

【見通し】

1. 中国の経済発展とともに、中国政府は検診にかかる費用が増加していく
2. 多発区の大衆は予防の意識を強め、検診者数が多くなっていく
3. 早期発見、早期治療が徹底されるようになり、多発区の食道癌の罹患率と死亡率が大幅に下がっていくと思われる